

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2019年 7月 25日

事業所名：GreenWood

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	指定基準を満たしたスペースを確保している。	充分だと思う。 はい86%、どちらともいえない14%	今後も利用児が使いやすいようにスペースを確保しながら、必要な物もそろえていく。
	2 職員の適切な配置	規定以上の職員を配置している。	充分だと思う。 はい100%	引続き必要な人員配置を維持し、利用児が増えたり、利用児の様子に応じて加配増員し、細やかな支援を目指す。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	視覚で理解し易いよう、マークや絵などで表示している。バリアフリーは徹底できていない。	はい86%、どちらともいえない14%	利用児の人数、様子に応じて棚の位置を変えたり、台所、扉等、子どもが触れないよう工夫していく。水回りへの配慮、視覚への刺激など改善していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の活動前後に掃除、定期的な消毒を行っている。活動し易いように、模様替えをしている。教材、遊具は自由に出して使えるようにしている。	感覚遊びが好きなので、ムニユムニユ、トゲトゲしたおもちゃがあると嬉しい。 はい100%	教材、遊具の研究が必要。感覚を刺激するものはもちろん、指導員も目的をはっきりさせてあそびを提供していきたい。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	週3日の短時間のミーティングと月1回のロングミーティングを定期的に行い、利用児について情報交換、支援の振り返り、施設全体での取り組みを共有している。	/	積極的に支援について話し合える場にしていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	本部と連携し、体制づくりを進めている。	/	今後も本部との連携を深めていく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	研修案内の回覧や、本部での研修参加の機会を実施している。職員は自ら進んで研修に参加している。	/	今後も職員全体の資質を向上出来るよう、研修に参加し、報告会を開催していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	初回の契約時のアセスメントで保護者や利用児のニーズを聞き計画を立てている。	開所されたばかりなので、まだ何とも言えない。子どもの様子を見ていて、いろいろしていただいていると思う。学校になれていくことにまだ追いついていないので、充分かは不明。	日々の様子から課題をしっかりと見つめていき計画を立てていく。相談支援事業所や他事業所との連携を密にして情報共有をする。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別活動、集団活動を含め、個々の利用児の特性に合わせた計画を作成している。	はい72%、どちらともいえない14%、わからない14%	
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	それぞれの利用児の特性に応じた支援内容を記載している。	はい86%、わからない14%	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	スタッフ全員が利用児全員の支援計画書に目を通し特性を理解しようとし、個々の日々の姿を細やかに見ている。	はい57%、どちらともいえない14%、わからない29%	支援計画書を何度も見返すことで、引き続き細やかな支援を行っていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	週ごとのプログラムを実施している。その週の担当者が基本計画をし、利用児の年齢、特性に合わせた内容になるよう、詳細を指導員で話し合って立案している。		プログラム作成のミーティングの時間を十分に持ち、共通理解のもと進めていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	現在、土日は営業していないが、平日、学校長期休業日、学校の行事振替日、保護者の急な変更等、可能な限り利用者のニーズに合わせている。		継続していく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	週ごとに違ったプログラムを実施し、前月と同じにならないようにしている。また季節の行事も取り入れている。	はい72%、どちらともいえない14%、わからない14%	利用者の姿を元に、活動の目的や目標をはっきりさせ、プログラムを計画する。また、保護者にも明確に案内していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	その日の活動の流れ、支援内容を口頭で話しあったり、日課表で確認している。		日課表の見直し、記録の書き方の見直しを行い、前回利用時からの引継ぎを定期的に行う。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	週3日、利用児や、プログラムの内容について情報共有の時間を設けている。		短時間でも、前日の記録を見みながら指導員の間で利用者情報を共有し、次の支援につながる時間をつくる。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々、個別記録を作成し、次回以降の来所時の関わりに活かしていけるようにしている。		記録・支援計画等の研修に参加し、記録・日課表のフォーマットの改善を行う。また、事業所内でも研修を行う。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	モニタリングは契約半年後から行う。現在、利用が半年以内の方ばかりなので、モニタリングは行っていない。		9月以降随時行っていく予定。細やかな聞き取りをしていくよう努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	児童発達支援管理責任者が必ず参加している	引続き、サービス担当者会議に参加するよう努める。	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	医療的ケアが必要な方、重度の方の受け入れはしていない。		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	医療的ケアが必要な方、重度の方の受け入れはしていない。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	現在、行っていない。	今後、取り組んでいきたい。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現在、行っていない。	今後、取り組んでいきたい。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	随時、職員に研修案内を提示している。	継続していく。	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在、交流の機会はない。	今後どのような活動をするのか教えてほしい。	利用児のニーズを考慮し、今後、取り組んでいきたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現在、行っていない。	はい14%、いいえ14%、わからない72%	今後、取り組んでいきたい。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に利用契約書、重要事項説明書を使い説明している。別途費用が発生する場合は、事前にお知らせしている。	はい86%、どちらともいえない14%	契約時の説明では、わかり易い内容、丁寧な説明を心がける。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画書を示しながら、保護者に口頭で説明し、同意をいただいている。	はい86%、どちらともいえない14%	より丁寧な説明ができるよう徹底していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	現在、行っていない。	ペアレントトレーニングがどういうものなのかをあまり分かっていない。 はい29%、どちらともいえない13%、いいえ29%、わからない29%	今後、取り組んでいきたい。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や電話、送迎の際に、保護者から話を伺ったり、様子を伝えて共通理解を図っている。	はい100%	継続していく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	随時、電話や送迎時に保護者とコミュニケーションをとるようにしている。保護者から相談があった時は、職員で共有し、支援に繋げている。	はい72%、どちらともいえない14%、わからない14%	個別の懇談を実施する。 アセスメント以外にも、気軽に相談できる環境づくりをする。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現在、行っていない。	交流会があれば参加したい。 はい14%、いいえ29%、わからない43%、無記名14%	今後、取り組んでいきたい。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	契約の際に説明している。	はい43%、わからない43%、無記名14%	苦情があった際は、職員間で情報を共有し、迅速に対応していく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	個別に電話をしたり、送迎時に保護者と話をするようにしている。	はい86%、どちらともいえない14%	継続していく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	現在、行っていない。	はい43%、どちらともいえない14%、わからない43%	今後、取り組んでいきたい。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	不要になった個人情報などはシュレッダーにかけ、個人情報(紙面)は鍵のある棚で管理している。データは決まった情報ファイルにて管理している。	見学者名簿が誰にでも見えるように置いてあり他の保護者から連絡が来てこわかった。 はい58%、いいえ14%、わからない14%、無記名14%	今後も十分注意して取り扱いたい。見学時に記載してもらった個人情報を個別シートに変更し、毎回ファイリングするように変更した。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルは作成し、室内の見える所に掲示するなどして、職員間で共有しているが、保護者への周知徹底は行っていない。	はい43%、わからない57%	職員間だけでなく、保護者の方にも共有できるようにする。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	現在、行っていない。	はい14%、わからない72%、無記名14%	今後、取り組んでいきたい。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	現在、行っていない。		今後、取り組んでいきたい。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	契約の際に保護者に伝え、契約書にも記載している。現在のところ、身体拘束が必要な利用児はいない。		必要となった時は、職員間で必要な身体拘束かを話し合った上で、保護者に説明、同意をいただくようにする。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食物アレルギーに対して調査票を記入してもらい、おやつ提供時や調理をする時に対応できるようにしている。		食物アレルギーの研修を受けるなどして、勉強をしていく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの記録を行い、事案について職員で話し合い、対策、改善に取り組んでいる。		今後もヒヤリハットの共有、改善点を話し合っていく。